

## 2004 淡路島合宿研修 FD リーダーワークショップ 報告

第1期全学FD推進プログラムの最終年にあたる本年度は、平成16年6月12(土) - 13(日)の両日、国立淡路青年の家を会場に開催されました。基礎プログラム参加者26名を含めて総勢51名の研修でした。

さて、今年度のリーダーワークショップの参加者は、次の通りです。

番号	氏名	所属	職名	備考
1	川上 博		副学長	
2	石田 啓佑	総合科学部	教授	教務委員会委員長
3	桑原 類史	総合科学部	教授	FD専門委員会委員
4	有澤 孝吉	医学部	教授	教務委員会副委員長
5	羽地 達次	歯学部	教授	教務委員会委員長
6	中條 信義	歯学部	教授	FD専門委員会委員
7	福井 裕行	薬学部	教授	FD専門委員会委員
8	山中 英生	工学部	教授	教務委員会副委員長
9	田中 均	工学部	教授	FD専門委員会委員
10	桑折 範彦	全学共通教育センター	センター長	総合科学部
11	大恵 俊一郎	高度情報センター	センター長	
12	金西 計英	高度情報センター	助教授	FD専門委員会委員

ワークショップは、上記番号を奇数組みと偶数組みの2グループに分けて実施しました。プログラムの内容は次の通りです。

## 2004年度リーダーワークショップの目標と進め方

### . 目標

今年度のリーダーワークショップは、次の目標を達成することを課題としています。

FD リーダーとして中期目標・中期計画に即して本学 FD の理念を述べることができる。

FD リーダー同士や新任教員との交流を図ることができる。

新任教員に対しては、温かく、建設的な助言を行うことができる。

第 2 期全学 FD 推進プログラムの柱立てを述べることができる。

### . 進め方

リーダーワークショップは、3 つのセッションと全体会議とで構成されています。以下は、各セッションのテーマと進め方のモデルです。各グループで工夫を加えながら、楽しく、生産的で、有意義なセッションとなるようご協力ください。

### 第 1 テーマ「徳島大学の教育理念とFD」

6月12日(土)

10:00 - 10:30 **オリエンテーション**

10:30 - 10:45 2004WSの進め方について 提案と討議、グループ分けと役割分担

10:45 - 12:00 WS (リーディングと討議)

12:00 - 13:00 **昼食・休憩**

13:45 - 15:20 WS (続)

15:20 - 15:50 各班発表(5分ずつ)と討議

16:00 - 16:25 全体会議における発表(5分ずつ)と討議

準備資料： 徳島大学中期目標・中期計画より

副学長論考(「国立大学法人化とFD」『徳大広報』N0.110、JAN 2003)

2002年度リーダーワークショップの資料から

発表メディア：OHPシート

### 第 2 テーマ「徳島大学のこれからのFD活動の進め方」

16:40 - 17:00 レクチャー「アメリカの大学におけるFD」(川野卓二先生)

17:00 - 17:40 WS (リーディングと討議)

17:40 - 18:00 各班発表(5分ずつ)と討議

準備資料： 全国 FD アンケート調査集計より  
岡山大学主催イベント資料  
アメリカの大学における FD

発表メディア：OHP シート

### 第3 テーマ「徳島大学のFD推進と条件整備」

19:30 - 20:30 WS (リーディングと討議)

21:00 - 22:00 交流会 (懇親会)

### 6月13日(日)

7:10 - 7:20 朝の集い

7:30 - 8:30 朝食・掃除

9:00 - 9:50 WS (続)

9:50 - 10:20 各班発表 (5分ずつ) と討議

11:00 - 11:30 全体会議における発表 (5分ずつ) と討議

12:40 - 13:00 昼食・休憩

13:00 - 15:00 「ミニ授業」発表会

15:00 - 15:30 まとめ・アンケート等

準備資料： 全国FDアンケート調査集計より  
その他

発表メディア：OHP シート

今年度のプログラム策定に当たっては、昨年度の事後アンケートの結果を踏まえつつ、新任教員との交流を図る、過密を避け、ゆとりのあるプログラムとする、の2点を念頭に置きました。

テーマは当初3つを予定していましたが、時間進行その他の事情により、第2・第3テーマについては合体してワークショップを進めました。リーディング資料については、FD全国調査や米国関連資料といった新しいデータを盛り込み、同時に種類を厳選して縮約したこと、プログラム中にセンター川野助教授の米国報告を入れたこと、ワークショップの結果はリーダー会のみならず、全体討議の場においても発表の機会をもつようにしたこと等により、昨年度よりゆとりの中で内容の濃いプログラムが展開されました。

恒例の事後アンケート結果(下記参照)をみますと、おおむね成功裡に終了したように思われます。次年度以降は、第2期計画となりますが、第1期の反省点を踏まえて、更に参加者の得心の行く内容・方法を開発する必要があります。

なお、本プログラムの運営は、実践センター廣渡、高情センター金西が担当しました。

## 2004 FDリーダーワークショップ(2004・6・12-13) アンケート結果

### (1) 今回のFDプログラムの内容について

全体的に良かった。これぐらいの量がてきとう。

少しテーマが大きすぎたと思うが、一方、全体的な流れはつかめた。テーマ内容からして資料提供に続いて直ちに議論する方向のような合宿形式は有効なのか少し疑問のあるところと思う。

現在の必要なテーマでタイムリーだ。

大きな課題で議論するのに論点がずれた。

良いと思います。話されたことをどう実現に向けるかが問題でしょう。考え良い。第1期3カ年の最終年でもあり、次期活動に向けた1期施の省りと更なる展望施策を考えることは実際的なテーマ、内容であった。

テーマが抽象的(大きすぎる)と感じます。テーマ設定の意図背景等の説明があると議論しやすいのでは?

全体的な内容は良かったと思います。このような活動を継続することにより、大学全体の教育システムが良くなっていくものと思います。話は少しずれますが、教育改革の方向が米国のもの後追いをしているような印象を持ちました。米国の良い点を取り入れながら日本の現状にあった改革がなされていくことを望みます。

全体的には良いと思いますが、最も基本的な問題は「いかに学生のやる気を引き出すか」であります。この問題を重点的に検討する必要があります。それと社会人としてのマナー(しつけ)をつける方法も検討するべきだと思います。

今後のFDの進め方についての議論は有益であったと思う(資料の提供もあり討論をやりやすかった)。

全体発表の後の討論時間としかけが足りないようでした。ワークショップ的に個人の意見を出させる工夫が欲しい。内容的には良いと思います。但し、リーダーと初任者の組み合わせについてはギャップを感じました。リーダー側には「望まれる大学教員像」とかのメッセージ・テーマがあっても良いかもしれません。最初に参加者の会への参加目的を語らせる、「かかせる」、公開するしかけが必要ですね。(注: ミニ授業も含めての意見)

### (2) 今回のプログラムの運営について

スムーズだった。

昨年に比べ時間的に少しゆとりがあり、単にプログラムにしたがって与えられたテーマを議論するだけでなく、日頃自分なりに疑問、考えていた事項、他学部の状況を個別に話が出来る余裕が出来てよかった。

たいへんスムーズな運営でよろしいと思う。

時間通りいかなかった。いつものことながら時間がタイトであった。

リーダーの人も新しい人と交流したい 夜のみでは少ない。総科はなかなか人と名前が一致しない - この研修でなく、別の機会が必要。

各プログラムの時間は結果からみると適切であった。検討事項は多岐にわたるので、

密度は高い。第2・第3課題は一つにまとめられた。これは内容的にも、作業時間からも効率的であった。

昨年と比較してWSの時間に余裕があり、種々の経験に基づく具体的な意見の交換が有意義であった。

資料を読む時間が足りなかったので事前に配っていただいても良かったかと思えます。FDに無関心な人(食わずぎらいの人)をいかに減らしていくかが今後大切になるのではないのでしょうか。

良いと思います。

ゆとりがあり昨年よりも良かったと思います。

全体としてスムーズですばらしい運営でした。第1研修室は常にグループ形式にした方が良いかもしれません。質問や討議をグループでする、代表者が発表する、講演者が答える、という形式をスムーズに出来るようにした方が良いと思います。「振り返り」の時間はもっととるほうがいいです。全員が感想を述べ、当初の参加目的の達成度について自己評価する程度の時間をとるべきです。これは定着化にとっても非常に重要なプロセスと思います。

### (3) 今回のプログラムの会場について

食事は良かった。ベッドにやや問題あり。

地理的にも近く、海に面して良好な自然の中で、他のさまざまな団体とのふれあいも出来て会場としては良いと思う。しかし、合宿研修のための様々な準備、会場設営等、担当者の負担は多大と思う。

寝る部屋が4-6ベッドのタコ部屋でいつもながら閉口させられる。

良かった。

こんなものでしょう。相応では。参加者が費用負担するので余り高額では大変ではないか。

大学からも近く、経済面でも程々を考える。もちろん、他団体と活動が重ならない会場があれば良いが、他の環境は良好と考える。毎回のことであるが、入浴・食事の時間に余裕が欲しい。朝の海岸散策は快適。

適当であった。

食事もおいしく、まわりの環境も良かったと思います。

問題はないと思います。

会場も良好と思います。

思ったよりは「問題なし」でした。

### (4) 今回のプログラムの全体的な印象について

スムーズだった。他学部の人と親しくなるという別の効果もあると感じられる。

基礎プログラム参加者数を増やす(減らさない)学生アンケート等資料を加えるとよりよかったと思う。

内容、運営ともに本音が出る良い雰囲気になった。より具体的に実行すべき内容が続出することを望む。

新人( ? )のプログラムとの交流が少なかったように思う。部屋割りに工夫が必要。  
基礎プログラムとリーダープログラムを交けても良い。

スタッフの方々に感謝。

初めての参加であったが、基礎プログラムとの連携は内容・交流面で考慮されているといえる。FD 運営・企画に関する良い体験勉強になりました。お世話になりました。

事前に資料を配布し、当日の議論がより深まるような方法をとったらどうでしょうか？

有意義なプログラムだったと思います。各班でまとめた報告の内容は何らかの形で feed back していただきたいと思います( 報告書 or ホームページへの掲載等によって)。他の参加者の方が大変よく勉強されているので、自分ももっと勉強しなければと思いました。

( 1 ) の内容をプログラムに入れて欲しいと思います。

色々の意見が聞くことが可能であったし、他学部の教員との交流も出来て好印象であった。

80 点の合格と思います。

\* ミニ授業の「気づいた点の記述 レーダーチャート」のシート、グループ分枚数は欲しいです。全員コメントを書いて出したほうがよいです。ミニ授業のテーマに「数学・微分積分」や「化学」など、Basic 理系を入れたほうがコンテンツの興味でない点での評価が中心になるとと思います。

### 写真集：リーダーワークショップ点景



A 班の議論の様子



B 班の議論の様子



発表風景



米国報告風景